


(ハ) 自らビジネスを創出できる人材の育成
DX 推進支援等研修（下期）参加者募集のご案内

受講料無料

～企業内における DX 推進人材を育成～

一般社団法人宮城県情報サービス産業協会（MISA）では、この度地域企業における「既存業務に即する」DX（デジタルトランスフォーメーション）推進を意図した標題研修を開催します。



＜“DX” についてのよくある疑問＞

- ・ DX とデジタル化は何が違うのか？
- ・ DX を推進するためには何に取り組めばいいのか？
- ・ DX 推進人材を育成するには何を教育すればいいのか？

↓

「“変革”などの言葉に惑わされることなく」、「AI/IoT などの“技術ありき”ではなく」本来求められる「業務の目線から追った DX」について、自社（または支援先）における実業務の課題発掘や解決策の立案を通じた基礎素養の醸成を目指します。

【DX 人材の基礎素養 = “何に” 気づいて “どのように” デジタル活用を推進するのか】

■対象：地域企業の中核人材の方、DX 推進支援候補者など（MISA 会員の有無・業種は問わず）

【DX 推進人材】自社内の DX 推進を意図する IT ユーザー企業（製造業・サービス業等）

【DX 支援人材】DX 関連サービスやソリューションを展開する情報系（IT ベンダー）企業

※本研修は IT ユーザー企業／ベンダー企業の双方を参加対象とします。

※本研修は「DX 技術系研修」ではありませんので、技術的な前提知識等は不要です。

※直接部門だけでなくバックオフィス部門などの方にも参加いただけます。

■主催：一般社団法人宮城県情報サービス産業協会（MISA）（宮城県委託事業）

■受講料：無料（宮城県委託事業のため）

■予定日程（下期）：12/12（火）～2/16（金）の間、3 時間×全 6 回（各日 14:00～17:00）

- ・ DX 基礎素養（リテラシー）研修；2 回（⇒研修内での参加者相互ディスカッションあり）
- ・ DX 企画推進実践；4 回（⇒課外実習あり／各社毎に分量や目標を個別に設定）

※本研修は忙しい中核人材の参加を想定しているため、業務都合による遅参／欠席は柔軟に対応します。

※可能であれば 1 社あたり複数名での参加を推奨します。課外実習の負担軽減や欠席時の相互フォローもありますが、何よりも本研修は「創造力×想像力」を働かせる要素が強いため、社員同士でのブレインストーミングの環境があると望ましいという理由もあります（もちろんお一人での参加も可能）。

■受講場所：Zoom／Slack 利用によるオンライン開催（成果発表会のみ仙台市中心部で集合開催）

※演習用 PC 及び回線などの遠隔受講に必要な環境や機材は各社で準備いただきます。

■募集定員：最大 8 社程度／1 社からの複数名以上の参加可（予告なく募集を締め切る場合あり）

■お申込み：別紙の申込書に必要事項を記入の上、MISA 事務局宛にお申込みください。

＜お申込み・お問合せ先＞

一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会（MISA） 事務局

〒980-0011 仙台市青葉区上杉 1 丁目 6-1 O EARTH BLUE 仙台勾当台ビル 5F

TEL：022-217-3023

E-mail：misa@misa.or.jp

DX 推進支援等研修（下期） オンライン開催（最終日のみ集合開催）

■本研修におけるDXの考え方 ～現場目線でのDXをテーマ～

会社としてのDXは本来、経営陣が考えるレベルのもので、全社的な革新がテーマになりますが、これらは経営戦略やビジネスモデルの再検討など非常に大きなテーマになってしまいます。本研修では戦略的なDXや経営革新などの狭義なDXではなく、既存業務に即した現場目線での広義なDX推進をテーマとし研修を構成します。

■研修において重視すること

- ・日本におけるDXの現状と課題の理解／それを踏まえた自社最適なDX企画推進力の育成
- ・大多数の日本企業（特に中小企業）に求められているデジタル化のテーマ立案を通じた創造力の基礎素養育成（→基礎素養の育成を通じ、創造力を要求される本来の意味での“DX推進”（=RPA, AI, IoT etc...”につなげる）

回	計画日程	予定内容	課外実習・【アウトプット】
基 1	12/12(火) 14:00～17:00 (3h) 【オンライン】	<DX 推進基礎素養育成> ■DX を取り巻く背景とDX リテラシー標準 (講義+ディスカッション) ・経済産業省のデジタルスキル標準(DX リテラシー標準/推進スキル標準)を基にしつつ、実務目線に即した事例等を交えながら“紐解く”ことでDXの捉え方を具体的に理解します。 ・研修内では参加者同士のミニワークも交え、相互交流の中からのお互いの気づきを得られる研修として展開します。	(事前アンケート) ⇒題材とするDX・業務改善テーマと推進主体に関するアンケートを実施
基 2	12/19(火) 14:00～17:00 (3h) 【オンライン】		※アンケート回答→各社毎の演習目標の検討
1	1月12日(火) 14:00～17:00 (3h) 【オンライン】	<DX 企画推進実践> □業務課題テーマの検討 (参加者の状況の共有と演習の方向性の検討) ・参加者各自の状況について、参加者同士での情報交換とディスカッションを行い、業務課題テーマとDX推進の方向性を見出しを行います。	【業務課題テーマ】 →課題の抽出・デジタル化の目的・狙い、期待成果などの業務課題テーマ(概要骨子)の策定
2	1月26日(金) 14:00～17:00 (3h) 【オンライン】	□業務課題テーマのレビュー(相互評価) ■デジタル技術の活用方策の検討 ・課外実習で検討したテーマについて全体レビュー及び相互レビューを行います。 ・必要に応じてソリューションの検討も行います。	【DX 推進企画概要】 →業務課題の深掘り、デジタル化による業務改善計画等の策定
3	2月2日(金) 14:00～17:00 (3h) 【オンライン】	■企画案の中間評価 ・デジタル化による業務改善計画の評価検討をします。 (研修の中では予算の制約はあえて設けない)	【同 (修正案)】 →事前レビューや研修内での相互レビューの結果を踏まえた計画の修正
4	2月16日(金) 14:00～17:00 (3h) 【集合研修】 ※オンライン参加も可	■成果発表会 ・研修の最終成果としてのDX推進企画案の内容について、発表と評価を行います。 ※各社都合等により集合参加が難しい場合はオンライン参加でも可(→ハイブリッド開催で運営します)	【成果発表資料】 (紙1枚～提案書レベルまで様々を想定) ※発表会終了後、懇親会(任意参加)の開催も計画

※各コースの開催計画日程は予定です。講師や各参加者の業務都合を踏まえ、変更させていただく場合があります。

< 課外実習について >

■ 期待アウトプット:

客先への企画提案概要(IT ベンダー)、自社での推進企画概要(ユーザー企業/IT ベンダー)などを想定
⇒ IT 企業の顧客先であるユーザー企業による推進、または企業自身による自社での推進を想定。

- 原則として自社(または支援先)の実業務課題をテーマとした DX 推進企画を実践
- 課外実習の分量や期待アウトプットは一律ではなく参加者毎に異なることを前提とし柔軟に設定
 - ⇒ 課外実習にかけられる労力や時間なども考慮しながら、企業毎/参加者毎の希望もお聞きした上で期待アウトプットを設定します。紙1枚で設定する場合も、それ相当の提案書レベルで設定する場合もあり得ます。
 - また、参加企業によって、「企業で一つ」とする場合、「参加者毎に個別とする場合」もあり得ます。
- 必要に応じて課外支援も対応
 - ⇒ 業務課題テーマの設定から成果発表までの各プロセスにおいて、必要に応じ研修外での課外レビューや策定支援打合せの対応も行い、課外実習アウトプットの確実な形成を目指します。

< 研修受講環境について >

- ・ オンライン研修は Zoom/Slack を利用します。社内ポリシー等でこれらの利用が制限されている場合の特別扱いは申し訳ありませんが研修運営の都合上対応できません。
- ・ 研修中は「ビデオ ON」での参加を原則必須とします。バーチャル背景の利用は可とします。
- ・ 本研修は双方向のディスカッション主体型研修であるため、研修内で参加者に発言いただく機会も多々あります。受講にあたっては社内会議室やご自宅等の専用の受講場所からの参加を原則とし、共用オフィスからのヘッドセットを用いた参加は原則不可とします。
- ・ 1社から複数以上のメンバーで参加の場合は、社内会議室に集まっての参加を推奨します(社内会議室をサテライト拠点とみなして研修を運営します)。ただし在宅勤務を推奨している会社はこの限りではありません。
- ・ 参加者が客先常駐勤務であるなど特段の事情がある場合は、各原則に関わらず配慮するものとし、研修運営に支障のない範囲で可能な限り柔軟に対応いたします。

■ 守秘義務・知財の扱い

各社アウトプットの相互評価を行う関係上、研修の中では相互に各社の情報を共有することが必須となりますので、あらかじめその旨をご理解の上で参加ください(必要に応じて固有名詞などを匿名化していただくことは可)。また、研修内で相互に知り得た情報の研修以外での利用は不可である旨をご理解いただくことが参加条件となります。

■ 講師(ファシリテーター)

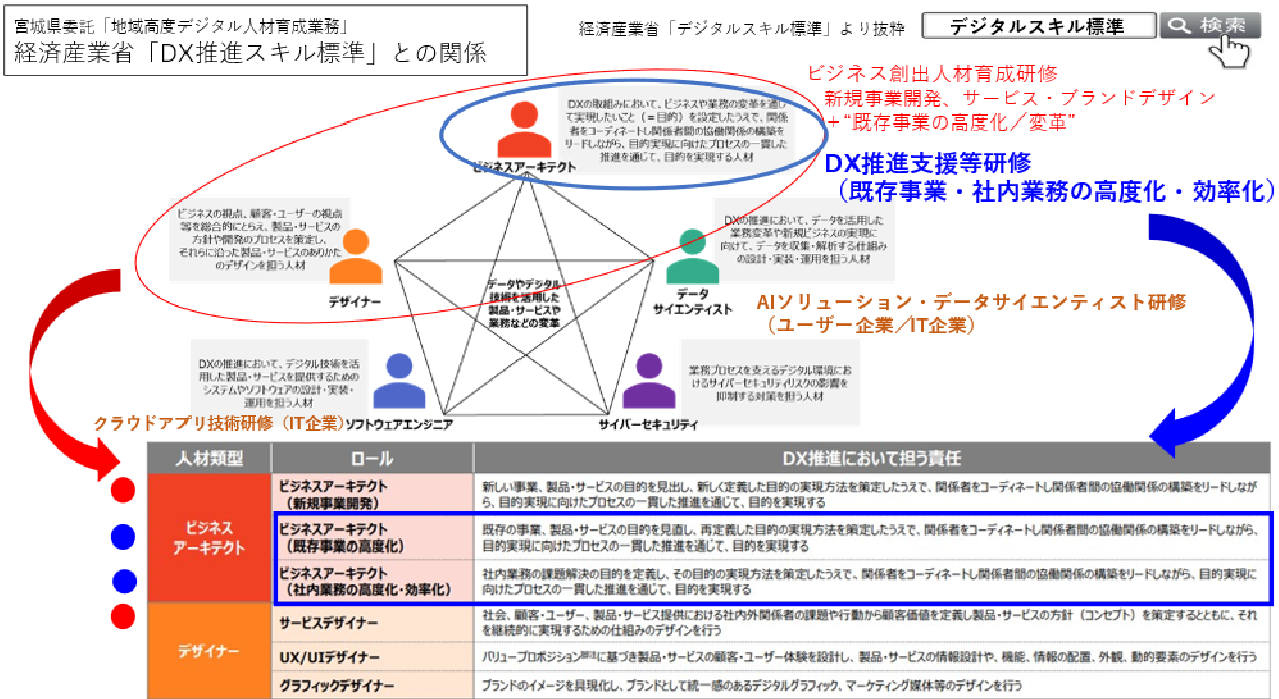
- ・ 一般社団法人宮城県情報サービス産業協会(MISA) 事務局 企画プロデューサー 庄子 栄光
(宮城県「みやぎ認定 IT 商品」派遣専門家)
- ・ 株式会社仙台情報サービス 代表取締役 佐藤 元
(宮城県「みやぎ認定 IT 商品」派遣専門家、宮城県中小企業等デジタル化支援事業補助金アドバイザー)

★研修お申し込み・受講にあたって(必ずご確認の上でお申し込みください)

本研修は宮城県委託事業であり民間の研修サービスではありません。委託事業としての成果は「研修受講後の受講者の皆様の定着」にあるため、受講にあたっては以下の点を承諾頂く必要があります。

- ① 受講者の途中での代替・代理受講は不可
研修受講者毎に定着状況調査を行うため、途中での受講者の一部代替受講や代理受講は不可です。
- ② 研修終了後の受講者理解度満足度調査への協力が必須
各研修の終了時に各受講者に対して提出の案内をいたします。催促しても未提出が続くなどの事象が発生した場合、研修窓口ご担当者へ連絡し社内で善処いただく場合があります。
- ③ 宮城県委託事業としての追跡調査への協力が必須
受講後に行う追跡調査(受講者の在職状況の調査)に協力いただくことが本研修受講の条件となります。追跡調査は本研修実施後に3か年にわたって毎年9月頃に原則としてメールで行います。窓口ご担当者に対するメールでの在職状況の確認のみとなりますので、それ自体にご負担のかかるものではありません。

【参考】DX 推進スキル標準における本研修の立ち位置



【参考】昨年度の本研修への参加者の声（抜粋）

- 顧客ごとにそれぞれ異なるDXの進め方、スタート地点がある（ことが理解できた）
- 必ずしも「デジタル化＝DXではない」ということを理解できたことが、最も印象的だった。『現状を楽に、便利に、効率的に』という考え方が全てDXに通じるということは、「DXとはデジタル化」と漠然と捉えていた感覚からは遠く及ばぬことだったため、その点だけでも大きな収穫となった。とはいえデジタルの名がつく以上、安易に切り離せるものではないということも理解した。
- AIやIoT、ビッグデータを活用した変革こそが本当のDXであると思っていたが、データとデジタル技術を活用して業務効率化を図り、会社の生産性を向上させることが本来の目指すべきDXである事を学んだ。
- 研修期間の都合上、短時間で密度の高い研修となってしまったが、研修内容には満足しております。研修の講師の方や受講者の方から企画案についてアドバイスや質問を頂戴した事で見失っていた「当該業務の本来の目的」を再認識する事ができたと同時に、同じ社内でありながら業務上の接点がそれほどなかった他部署との交流を深める事もでき、充実した研修となった。
- 想像よりも非常に内容が濃く、やりごたえのある研修だった。また、研修を通じて各社それぞれ抱えている課題があり、自分と同じように悩んでいる方がいることを感じる事ができた。